



※イメージ画像

令和8年度 海外研修事業

= 多文化ビジネスをマレーシアで学ぶ =

期 間： 2026年8月17日(月)～22日(土) 6日間



主 催： 全国商業高等学校長協会

旅行実施： ベストワールド株式会社

東南アジアの中心に位置する「多民族・多文化国家」

マレーシアは、アジアの中でも著しい経済成長を続ける国際ビジネスの拠点です。首都クアラルンプールを中心に世界中の企業が進出し、街では英語が広く使われ、中国系・マレー系・インド系など多様な文化を持つ人々が共に働いています。そこでは異なる価値観や習慣が交わりながら経済活動が行われており、「多文化の中でビジネスを進める力」が自然に求められる環境が広がっています。本研修は観光旅行ではなく、商業高校で学ぶビジネス、流通、観光、情報、会計といった専門分野の知識が、海外の社会でどのように活かされているのかを実際の現場で学ぶ体験型の学習です。企業や商業施設の見学、国際都市のビジネス環境の視察、英語でのコミュニケーション体験を通して、教科書で学んでいる内容が世界とつながっていることを実感できます。日本とは異なる市場の仕組みや消費の動き、多民族社会ならではの商習慣に触れることは、将来の進路選択や職業観を考える上で大きな刺激となるでしょう。国際社会の中で求められる視野の広さと実践的な力を育てる第一歩として、このマレーシア研修は皆さんの可能性を大きく広げる貴重な機会となるはずです。

是非、この機会に関係者の皆様には奮ってご応募頂けます様、よろしくお願い申し上げます。



【マレーシアでの研修のポイント】

①海外ビジネスの現場を体感

アジアの成長国マレーシアで、世界とつながる企業活動や商業施設の仕組みを視察。日本との違いや国際市場の動きを肌で学びます。

②流通・販売のグローバルな仕組みを学ぶ

大型ショッピングモールや現地店舗の見学を通して、商品の流れ、販売方法、消費者ニーズの違いを実地で理解します。

③多文化社会の中でのビジネス理解

多民族国家ならではの商習慣や価値観の違いに触れ、国際社会で働くために必要な視野の広さを身につけます。

④英語での実践コミュニケーション

現地の人との交流や施設訪問時の英語使用体験により、「教科としての英語」から「使える英語」への意識を育てます。

⑤商業科目と現地社会の結びつき

学校で学ぶ「ビジネス基礎」「情報処理」「会計」などが、実社会でどのように活かされているかを理解します。

⑥国際感覚と主体性の育成

海外という環境で行動する経験が、自主性・協調性・課題発見力を高め、将来の進学・就職につながる力を育てます。

⑦将来を考えるきっかけづくり

海外のビジネスや社会を知ること、自分の進路や「働くこと」への視野が広がります。



※掲載された写真はすべてイメージです

2025年 海外研修事業(マレーシア・クアラルンプール)日程

月 日	曜	発着地	時 刻	交通機関	摘 要	食
2025年 8月18日	月	成田空港ホテル	13:20	各 自	成田空港近郊のホテルに集合。 事前研修を行います。 【成田空港近郊ホテル泊】	夕
8月19日	火	東京（成田）発 クアラルンプール着	11:20 18:25	JL-723	成田空港へ移動。 空路直行便にてクアラルンプールへ。 着後、専用車にてホテルへ。 【クアラルンプール泊】	機 夕
8月20日	水	クアラルンプール滞在	午前：クアラルンプールでの学校交流 ウェルカムセレモニー、両国の教員代表から挨拶、両国の生徒代表から挨拶、記念品交換、マレーシア生徒からパフォーマンス等々 午後：JICA（国際協力機構）マレーシア事務所訪問 マレーシアは、2019年に10年間の国家開発計画「ビジョン2030」を発表し、2030年までにマレーシアを「所得グループ、民族、地域、サプライチェーンを越えて、公正で公平な分配と共に持続可能な成長を達成する国」にすることを目標として掲げています。JICAは、この目標達成に向け、1）先進国入りに向けた均衡のとれた発展の支援、2）東アジア地域共通課題への対応、3）東アジア地域を越えた日・マレーシア開発パートナーシップの強化に重点を置いた協力を実施しています。 【クアラルンプール泊】			朝 昼 夕
8月21日	木	クアラルンプール滞在	午前：サンウェイ・カレッジにて講義を受講 会計コースに力を入れている学校となります。2019年OPENの新しい学校です。各学生の独自の学術パスに合わせて調整された6つのプレユニバーシティプログラム（大学準備プログラム）を提供しています。 昼：Ken Chan Curryを運営する日本人創業者である吉田氏からハラールについての講話 午後：日本人起業家からの講話 マレーシアで企業する日本人は多数存在します。日本に比べてマレーシアは女性でも仕事で活躍しやすい環境があり、マレーシアは民族国家なので、多種多様な人種で成り立っており、その分格差を感じる事がほとんどないことから、外国人を受け入れる器が既に備わっています。 3大民族を学ぶ マレーシアイスラム美術館、バトゥ洞窟、天后宮を訪問 【クアラルンプール泊】			朝 昼 夕
8月22日	金	クアラルンプール発	午前：現地大学生とのフィールドワーク（B&Sプログラム） （日本の生徒5～6名で1グループ） ※グループ毎に行動しますので昼は基本それぞれ自由食となります。現地で昼食代をお渡しいたします。 ※マレーシアの学生の価値観を知り、より深い位置で文化を交換 ○現地大学生とともに観光地、街歩き、市場調査を行う体験プログラムです。スケジュールを自分達で企画するところからプログラムは開始です。公共機関を利用して街歩きをする中で海外生活への関心が高まり、当地の生活物価を体験する事ができます。 夕刻：プトラジャヤ観光（ピンクモスク、首相官邸、人口湖）			朝 昼
			22:50	JL-724	空港近くにて夕食後、空港へ移動。 専用車にて空港へ移動。 空路、帰国の途に。 【機中泊】	夕
8月23日	土	東京（成田）着	07:00		帰国手続き後、解散。	機

※訪問先については予定として記載おります。今後、変更となる場合があります。

※航空機便名、発着時間については変更となる場合があります。

マレーシアでなぜSDGsを学ぶのか、「学び」から得て行動する

「インプット」「プロセス」「アウトプット」の3つのステップをベースとして“見て終わり”にならないプログラム。

Withコロナ時代における教育のマインドセット
「答え」がない社会に必要な能力こそ“主体性”

社会で問われる理想的なスキル



得られる3つのスキル



感じられる3つの体験



Step 1: インプット |
現状を知り、課題を発見する

観光・体験・交流から、マレーシアの現状を知り、SDGsの観点から今起こっている、そして将来おこるだろう課題を見つけてみましょう。様々な領域の人、知識や経験に触れ、視野を広げる事がStep1で最も重要なポイントです。



Step 2: プロセス |
自分ごと化で考える

課題を発見したら、自分の身の回りにおきかえ、自分たちが暮らす街で同じような課題がないかをリサーチしてみましょう。地元の人たちにヒアリングをしたり市場調査を行う事も旅行中に出来るリサーチです。



Step 3: アウトプット |
自分に何が出来るだろう
(スクール・アクションプラン)

発見した視点やアイデアを言語化することで、体験を自分ごと化し、今後何を行動すべきかを明確にし継続的な行動に挑戦する。



※掲載された写真はすべてイメージです

B & S（ブラザー＆シスター）プログラム

マレーシアの学生の価値観を知り、より深い位置で文化を交換できる

現地大学生が兄弟姉妹役（Brothers&Sisters）となり、一緒に観光地巡り・街歩き、市場散策などを行う体験型プログラムです。出発地に沿ったスケジュールを自分たちで企画する所からプログラムは開始です。公共機関を利用して街歩きをする中で海外生活への関心が高まり、当地の生活物価を体験する事ができます。身近な未来像に交流することで自分の夢を考える「未来への気づき」になります。



マッチング



B&S開始、画像USM出典



ランチタイム



思い出の1枚

相手を知ろうという気持ちで「ハラル」を学ぶ

ホテルシェフがおしえる“食から知るハラル”

イスラム教徒(ムスリム)の人口は世界の25%を超え、その半数以上はアジアに居住しています。アラビア語の「ハラル」とはイスラムの教えで“許されている”という意味からきており、神の教えに従って生きるムスリムの生活全般(食品、化粧品、約束、仕事など)を指します。イスラム法に則って生産・提供された商品かは「ハラル認証」マークで確認ができ、多民族・多宗教また経済発展により輸入品や加工品が増える中で国が確認し、安全なハラル商品を購入できる制度が整っています。



コーラスホテル



レストラン



マレーシアのハラル認証マーク



ハラル認証を受けたキッチン

なぜ首都機能をクアラルンプールからプトラジャヤへ移したか

住み続けられる街づくりを目指して

首都クアラルンプールでは人口増加、交通渋滞、政府機関においては市内に点在しているが故の運営非効率や家賃の高騰等さまざまな問題を抱えていました。そこで首都は変えずに行政機関のみ移転する案が可決、1999年新たに行政首都「プトラジャヤ」が誕生し、そこで働く人たちの移住を推進しました。現在約10万人の人口を移住させたプトラジャヤ計画の方法と行政都市だけにとどまらず観光地としても発展



美しいピンクモスク



首相官邸



クアラルンプールの交通渋滞



CO2排出量削減への取り組み

※掲載された写真はすべてイメージです